

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えを
お聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

カラス好きですか

投稿日：2018.09.30 ニックネーム：j・h

先日NHKラジオでカラス愛好家という方の話がありました。カラスの生態や頭の良さ、カラスを写真に撮ってその可愛らしさも発信しておられます。「友の会」もあるとのことでした。一般的には嫌われ者のカラスですが、最近カラスのことが可愛いなと思っていたので聴き入ってしまいました。夕方群れをなしてカーカーと森の方へ帰るカラスを見て「きっとかわいい7つの子がいるのね」などと想像しています。

カラスと聞いてすぐ頭に浮かぶのは、今年5月に亡くなられた絵本作家のかこさとしさんです。多分一度は手に取っていらっしやることと思いますが、私も子供が幼かったころよく読み聞かせをしとても楽しそうに聞いてくれる様子を見るだけで幸せを感じたものです。このたび「からすのパンやさん」を読み返し、かこさんは子供たちだけではなく私達大人にも大切なメッセージを伝えて下さっていたことに気付きました。それは、「ふつうのおんなの子」を読んだ後だったので思い至ったのですが、このカラスの夫婦も日常を大切にし毎日を丁寧に生きているのです。生まれた4羽のあかちゃんもカラスなのに赤色、白色、黄色、茶色の毛。絵本では、それでもカラスの夫婦はにこにこ嬉しくて4羽を優しく大事に育て日々の生活に追われながらも育児を楽しんでいます。ふつうのおんなの子のちからだとおもいました。

かこさとしさんは亡くなられる直前まで絵本を書くことを続けられました。その原動力は戦争体験だったとのこと。終戦後手のひらをかえたような大人の態度に子供たちはどう感じたか、当時戦争を賛美したじぶんも同罪だと反省し”こどもの応援団”として生きることを決意されたそうです。戦争を体験された方のメッセージには深いものがありますね。ぎりぎり戦争を知らない私ですが今伝えて下さっていることを今度は私たちが若い方に伝えることが大切な役割と思っています。

お返事

投稿日：2018.10.04 名前：中村桂子館長

かこさんの”からすのパンやさん”はいつまでも読み継がれる絵本ですね。生命誌の応援をして下さる大切な方でしたので、先日お別れの会に出席しました。お書きになったたくさんの方に囲まれての旅立ち。おかしな言い方ですが、幸せそうでした。とてもよい生き方をなさいましたから。戦争のこと。戦争をするのはバカバカしいと皆が思うようになる。そんな世界を思っています。

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.09.28 ニックネーム：朋

「生命誌」は生きるための哲学でもあると思っています。「生命誌」はミクロとマクロをつないで考えることの大切さを教えてくれます。時間で言えば今と歴史的時間です。換言すれば俯瞰することの大切さです。

「生命誌」は括り方を変えれば物事の重要性の順位が変わり、周辺との関係性が顕在化することを教えてくれます。例えば「ゆらぐ」とか「つむぐ」という言葉で括り直すと新しい世界が見えてくることを示唆してくれます。大和ことばの



新着情報



10月19日生命誌オープンラボ
(19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

包含性です。このように、いつもわくわくする思いで拝読しております。有難とうございます。

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：中村桂子館長

私が生命誌について語りたいことをみごとにまとめて下さってありがとうございます。いのちを基本に考えるお仲間として、これからもよろしく願いいたします。いろいろお考えをホームページ「語り合う」にある「生命誌の広場」（当ページ）に書き込んで下さいませんか。

お返事

投稿日：2018.12.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

お言葉いただきありがとうございます。生命誌の輪郭を的確に捉えてくださり、とても勉強になります。来年からは動詞で語ることに以外にもさまざまな切り口を模索していきますので、ぜひ、これからも生命誌を通してのお考えを私たちにお聞かせ願います。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.09.28 ニックネーム：M・H

中村先生の本を読み始めて凡そ10年に成ります。季刊生命誌98号の時間論と遺伝子の構成、私にとっては将に核心点です。ドキドキと動悸がします。何故か、トランプ・ファーストを想起しました。

私の場合、財務畑を歩んで来た所為か、貸し方・借り方、債権と債務のバランスに気が行くのですが、何事もイコールに見えて実はイコールではない事に留意して来ました。又、時間と時間、空間と空間、時間と空間、何れも決してイコールではないと思って来ました。対称でないものを対称関係に置く事が、ヒト属の自己矛盾の展開方法だと想います。故に、其の意味でトランプは最先端に立って居ると思ってしまいます。何故なら、本来、災害大国で債務膨張の日本こそファーストでないといけないからです。

遺伝子の構成図の右端に「続き」があるように、私たちは「展開」を予想して居ます。「次」はどうか？、と。――戦慄が走ります。科学は目的の為にものと関与しなければいけないと想います。

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

ご感想ありがとうございます。財務という大切なお仕事の中で、数値だけにとらわれず、さまざまなことを考えていらっしゃるのが素晴らしいと思いました。自分の持っていないものを手に入れたり、できないことができたりと、お金はすごい発明であり、今の私たちにはなくてはならないものだと思います。けれどおっしゃる通り、誰かの時間もどこかの空間も、お金に換算することで好きなように切ったり貼ったりできるように思えてくることがあり、自分でも怖いなあと感じます。未来へのご思索に、季刊生命誌も少しでもお役に立てれば幸いです。そして、これからもお考えになったことを、「生命誌の広場」にお寄せください！

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：中村桂子館長

私が一番苦手とする財務の御専門の方が、御自身のお仕事と生命誌を関連づけて考えて下さっていると伺い、生命誌の広がりを感じました。ありがとうございます。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.09.28 名前：長谷川源治

自然科学が好きで勉強させていただいています。揚羽蝶の行動について詳しく説

明されているので興味大です。庭に来た蝶を見て俳句の中に取り入れたり、蝶を見ながら生活の一部としてコーヒーを飲みながら、こころを癒しています。今住んでいる地域の蝶はナミアゲハが指定されており環境は生命誌そのものなのです。紙工作が楽しくて、すぐ完成させています。これを木製にしてみたらと考えています。子供達が触ったり持てれば良いなあと思っています。

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：中村桂子館長

「生命誌そのものの環境」という言葉、とてもよいですね。紙を木になさるという発想も興味深いです。

お返事

投稿日：2018.10.11 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・中井

日常と生命誌の重なりを感じるこののできる素敵な時間をお過ごしですね。紙工作も楽しんでいただけて嬉しいです。これからもたくさんの人に手にとってもらい、何か考えたり感じたりしていただけるような季刊誌を作りたいと思いますのでどうぞよろしくおねがいいたします。またぜひ、生命誌研究館の食草園にも足を運んでください。チョウをはじめ、様々な植物や生きものとお待ちしています。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.09.28 ニックネーム：ひまわり

いつも、楽しく拝見しております。特に工作は、職場で時々、展示をしております。アクセントになります。生命誌を読むことは、その言葉ひとつひとつが、日常の生活の中で、ふと自分を振り返る貴重な時であり、生命や自然に対し崇高な気持ちになれる瞬間を持たせてくれます。以前、娘の高校で行われた中村桂子さんの講演会の内容も、とても心に残っています。いつもありがとうございます。今後もますます楽しみにしております。

お返事

投稿日：2018.09.28 名前：中村桂子館長

励みになるお言葉ありがとうございます。今の社会を見ていると、人間は生きものであるというあたりまえのことを考えることの大切さが増しているように思います。お仲間として、よろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2018.10.01 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・平川

紙工作ご愛用ありがとうございます。身近な自然や生きものを通して、科学と日常をつなげたいと、頭をひねっています。ちょっとひねりすぎかなと思いつつも、他にないものをお届けしますので、楽しみになさっていただけたらうれしいです。

その他

マンダラという”うつわ”

投稿日：2018.09.24 名前：岡野桂子

土曜日、新聞のテレビ欄にマンダラ、生命誌という言葉が。その言葉につられて視聴。Eテレ”こころの時代”マンダラと生きるの最終回、「マンダラと日本人」の再放送でした。

マンダラが日本にどのように受け入れられてきたかというお話の中、マンダラをマンダラという”うつわ”と表現されました。神仏習合、有象無象のものが詰め込まれて、しかし、むちゃくちゃではないのですよと（ここで今年のテーマ「容」を思い出しました）。そこに、日本の自然に対する想い、自然観のようなものが注ぎ込まれ？本来のマンダラとは少し異なるマンダラが。そこではマンダラを中心から離れた仏様、さらにはマンダラの外にいらっしゃる神様にスポットが当てられ主人公になっています。中心から外へ、外からまた中心へ。い

るんな神様仏様がそれぞれ浮かび出たり姿を消したり。生命誌マンダラを思いました。

後半、中村先生が登場され、アリもバクテリアもみんな38億年の時を紡いで今ここに生きているのですというお言葉、文字を通してではなくお声で聴けて嬉しかったです。再々放送、ないのかな～。

お返事

投稿日：2018.09.25 名前：中村桂子館長

こころの時代を見て下さったとのことありがとうございます。生命誌を通してものを見るということでこれからもさまざまな視点を探していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



研究について

密教と科学における生命観と平等論

投稿日：2018.09.22 名前：太田 隆

上記のテーマが高野山大学大学院での研究テーマです。先生のお考えと同じであることを先日Eテレで曼荼羅のことで先生が出演され非情に興味をもちました。ただ、有情無情のすべての元は「素粒子」にあるとかがえました。宗教と科学と相容れぬでしょうが、たとえば「ニュートリノ」は目に見えないが地球をもとおりぬけるさまは、まさに摩訶毘盧遮那仏（大日如来）の慈悲の光と考えるようになりました。これらの点について間違っていたら、ご教示下さい。

よろしくお願いいたします。

お返事

投稿日：2018.09.25 名前：中村桂子館長

生命誌マンダラへのコメントありがとうございます。生命誌の世界としてこのようなものが描けるということですので、宇宙を基本にして描くとまた違ったものになるのだと思います。元は素粒子とお考えになってのマンダラを描かれたら是非ここに投稿していただきたく楽しみにしております。



中村桂子の「ちょっと一言」

BRHメールマガジン vol.340 新着情報

投稿日：2018.09.16 ニックネーム：相模のラクダ

館長様の「完璧でなくても楽しくがふつう」を拝読した 感想を記載いたします。私の「心」と マッチした所があったみたいなので…。
館長の「人生」の中にも、色々あったんですね。始めて知りました。（あまり、こういう、内容を 発表するには、自信と恐怖が入り乱れた物があるでしょうね？）私の知人にも「ハンデキャップ」を持った方が、3人おられます。でも、確かに、若い時は、明るく、マイナス面も、プラスに変えて、「チャーミングさ」や、「強さ」 さえ感じましたが、でも、シルバー世代になると、持病が…。でも、長い付き合いなので、ず～っと、見守ってあげたい と思えます。人生は「山あり、谷あり」が 普通で、みんな（どんな職業の人：文系 理系の研究者、プロ・アマの スポーツ選手に サラリーマン、定年後の方）も それを乗り越えて生きて行かなくてはならないのですから。厳しい様ですが、それも、人生と、割り切り、この「物語」の様に、考え方を変えて、どう、マインドを「反転攻勢」に 替えるか だ と思いました！：一生に一度の「人生」ですから、悔いのないもの、楽しいものにしたいですから。（：私の事は別にして…！）

お返事

投稿日：2018.09.18 名前：中村桂子館長

生きものには完璧なんてどこにもないのに現代社会はなんとなくそれを求めているのでしんどいのではないのでしょうか。生きものとしてふつうに生きていこうと考えれば、そんなに厳しいと思わずに自分に合った生き方ができると思っています。



中村桂子の「ちょっと一言」

投稿日：2018.09.11 ニックネーム：teru

今日、「ふつうのおんなの子」のちから」届きました。
毎日新聞の書評を読み、「おんなの子の」知恵を活かしたい・・・
先生の書は何冊か読ませて頂いております。
今回は、理系女子・・・(りけじょ)の話でなく、政府が言い出した、女性活躍の場
を敢えて本にされたのでは・・・私の勝手な解釈で読ませていただくことにいた
しました。
内閣府男女共同参画局 ってなんだろう・・・おとこのちから・・・おんなのちか
ら・・・を確認のことか??
ふつうのおんなの子の未来に向かってどう生きるか・・・戦後「おんなの子は
どう思い読書からの未来に向かって生きてきた・・・先生の人生の風景と思いな
がら読みたいと思っております。

お返事

投稿日：2018.09.18 名前：中村桂子館長

「ふつうのおんなの子」に関心をお持ちいただきありがとうございます。こ
の子は内閣府とは無関係。お偉い方がおっしゃる活躍は本当の活躍ではない
と思っている子です。権力の中に入りこみなさいと言うのですから。ここで
いう「ちから」は、権力と最も遠いところにあり今それが一番大事だと思っ
て書きました。

季刊「生命誌」

BRH CARD 98号

投稿日：2018.09.09 ニックネーム：相模のラクダ

今回は、京阪神への「台風21号」及び、「北海道地方で発生した大地震」に
より、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。きっと、この会員の
中にも被災された方がおられると思います。気落ちせず、前を向いてください。
さて、今回の季刊生命誌98号を拝読し、館長様と岩田先生との「対談」を興味
深く感じ、やはり、「心」と「脳」の関係は、一筋縄では解明できないことを
認識できました：不思議ですよネ！。また、他の「RESEARCH」も最先端の研
究成果をご教授いただき、感謝です。それに加え、「アホウドリ」の繁殖に成功
し、当初ひん死の15羽→688羽のヒナを確認され、鳥島のアホウドリの集
団は、目標の、5千羽に到達されました。絶滅が免れたことは、世界の生物学
への大貢献です。この長谷川先生の人生をかけた、作戦も、生物を思う「心」
が、トリガーになったのでしょうか。目標達成、お疲れ様でした。アホウドリも
喜んでいることでしょうか！話は変わり個人的なことですが、今回の付属の「紙
工作」の製作に少々失敗したのが残念で、「心」残りとなりました・・・。
では、皆様、夏のお疲れが取れ、文化・科学、食欲の「秋」なので、体力・知力
の増加に、がんばりましょう！では、この辺で・・・。

お返事

投稿日：2018.09.11 名前：中村桂子館長

「季刊誌」をていねいに読んで下さってありがとうございます。さまざま
分野のさまざまな方のお話ですがどれも、日常をじっくり見て、時間をかけ
て考えるというところは同じです。今の社会に欠けていることだと思い、そ
こに注目しています。



中村桂子の「ちょっと一言」

RE:戦争反対

投稿日：2018.09.08 ニックネーム：ミッキー

素敵なコメントをありがとうございます。嬉しいです。
なるほどなと思いました。

台風で、庭のゴーヤと朝顔のグリーンカーテンが、支柱のアルミパイプが折れ
て全壊しました。自然の力はひどい目に遭った時にわかるものなのですね。食

お返事

投稿日：2018.09.10 名前：中村桂子館長

こちらこそ。このページに書き込んでいただくのは研究館活動への励みになります。これからもよろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2018.09.10 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

お便りありがとうございます。台風の力、本当にすごかったですね。家のまわりでさまざまなものが飛んでいくのをただただ眺めて、圧倒されていました。研究館の食草園は無事です！ チョウの幼虫も育っています。

季刊「生命誌」

季刊生命誌ハガキより

投稿日：2018.09.07 ニックネーム：法橋登

生命誌97号で「分子から脳の科学へ」を拝読しました。最近私の本「三つの脳の進化」が工作舎から刊行されましたのでご参考になればと思います。

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：中村桂子館長

いつも感心を持っていただきありがとうございます。研究はどんどん細かくなっていき、私の脳が悩んでいます。

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

三品先生のサイエンティスト・ライブラリ「分子から脳の科学へ」を担当した齊藤です。「三つの脳の進化」、現在拝読しています（まだ途中ですが・・・）。現在の脳科学は細胞生物学・分子生物学・機械科学など新しい分野の方も活躍していて多面的ですが、その根っこにある医学や生理学、解剖学の脳研究を振り返り、脳の進化を考える内容で、とても勉強になっています。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.09.07 ニックネーム：だるま

ポストを開けて、生命誌が入っていると心がワクワクします。あの、見た目からは、□という形素晴らしいです。中身ですが、文章がなかなか頭に入ってきません。色付けや、生活にどう影響しているのかなど、少し今の生活やこの世の中の身近のことと関連して表現して下さいと分かりやすいと思いました！

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：中村桂子館長

御指摘は大切なことです。新しくわかってきたこと、今大事と思うことを短い形でお伝えし、それをお読み下さる方一人一人からご自分に引きつけて考えていただくとありがたいと思っているのですが、私たちの力不足ですね。

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

生命誌を楽しみにしてくださって、ありがとうございます。生命誌が正方形のカードの形になって15年以上が経ちます。「□といえば生命誌」と読者の皆様に思っていただけでいたら嬉しいです。

内容についてのご意見、ありがとうございます。分子や細胞の動きなど、すぐ側で起こっているけれど目には見えない現象を表現する方法を、日々模索しています。もっと身近に感じていただけるよう、表現を磨いていきます！

季刊「生命誌」

季刊生命誌96号ハガキより

投稿日：2018.09.07 ニックネーム：芥川

子どもたちに話すネタを考える上で参考にさせていただいております。大変役に立っているのではと思います。

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：中村桂子館長

お話なされた子どもさんたちの反応など教えていただけるととても嬉しく、ありがたいので、これからも声をお寄せください。よろしく願いいたします。

お返事

投稿日：2018.09.07 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

子どもさんに向けてお話をなさっているとのこと。ありがとうございます。年齢を問わず多くの方に楽しんでいただけるよう、幅広くかつ選りすぐった内容を発信していきたいと思います！

その他

ありがとうございます

投稿日：2018.09.06 ニックネーム：ラクダのマサ

川名さま
文献ありがとうございます
ヒトの色覚は社会性によるものだということが有力説なのですね(今のところ)日経サイエンスの別冊「鳥の科学」を読んだのですがこのことには触れていなかったように思います(古い記事も多いので)ありがとうございます。

お返事

投稿日：2018.09.10 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

自分も「ものを見るしくみ」の背後に、長い進化の道のりがあることを考えるとワクワクします。今後の研究の展開を私も楽しみにしています。季刊誌を読んで感じたこと、疑問に思ったことなどぜひまたお寄せください。

中村桂子の「ちょっと一言」

百日紅の色鮮やかさ

投稿日：2018.09.02 ニックネーム：やっちゃん

最高気温が35度を越え、日中の外出は控えるように防災放送が伝える異常な夏が終わろうとしています。

高温になると、蚊も飛ばなくなることを始めて知りました。
そんな太陽がガラガラ照る中で、元気に枝を伸ばし花を満開に咲かせている百日紅が目立ちました。今年は特に色鮮やかです。牡丹色から紅梅色、桃色や白色など色とりどり。こんなに目立つのは覚えがないくらいです。水が切れて元気がない街路樹や木陰を探して歩く私へ、エールを送るように枝を揺らしています。元気をもらいました。

お返事

投稿日：2018.09.05 名前：中村桂子館長

我が家の庭はヤブ蚊の天国のようなところで草取りをする時は必ず蚊取り線香をぶら下げます。確かに今年は蚊も元気がなかったように思います。暑さと災害続きの夏も終わろうとしており、少し時間が経つと忘れるのが常ですが、なぜこんなことになったのか知りたいですね。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [プライバシー](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.